

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2024年4月19日

新型コロナワクチン接種は、新型コロナ感染後の心臓病などの血栓性疾患を減らした

【松崎雑感】

新型コロナワクチン接種のベネフィットに関するHeart誌の論文です。

新型コロナ感染が血栓症を増やす傾向があるため、心筋梗塞などが増えることが報告されていますが、ワクチンを接種すると、接種しない人々と比べて感染後の血栓性疾患が有意に減ることがわかりました。

新型コロナワクチン接種が新型コロナ感染後の心臓病などの血栓性疾患を減らした

Mercadé-Besora N, Li X, Kolde R, et al. **The role of COVID-19 vaccines in preventing post-COVID-19 thromboembolic and cardiovascular complications.** *Heart*. Published online March 12, 2024. doi:10.1136/heartjnl-2023-323483

目的

新型コロナワクチン接種と新型コロナ感染後の心臓および血栓塞栓性合併症のリスクとの関連の研究。

方法

英国、スペイン、エストニアの電子カルテを用いた全国的なワクチン接種キャンペーンに基づく時差コホート研究。

アウトカムは、新型コロナ感染後の4つの時間枠(0-30日、31-90日、91-180日、181-365日)に記録された心不全(HF)、静脈血栓塞栓症(VTE)、動脈血栓症/血栓塞栓症(ATE)。

結果

解析対象：ワクチン接種者1,017万人とワクチン未接種者1,039万人。

新型コロナワクチン接種者では、未接種者よりも、心筋梗塞、動脈・静脈血栓症リスクが低下していた。

新型コロナ感染後0～30日間では、静脈血栓症0.22(95%CI 0.17～0.29)、動脈血栓症0.53(0.44～0.63)、心筋梗塞0.45(0.38～0.53)、感染後91～180日では、それぞれ0.53(0.40～0.70)、0.72 (0.58 から 0.88)、0.61 (0.51 から 0.73) だった。(血栓性疾患がおおむね半減した：松崎)

結論

新型コロナワクチン接種は、新型コロナ感染後の心臓病および血栓塞栓症の転帰のリスクを低下させた。この効果は、感染から間もない時期ほど著明だった。新型コロナに再感染した場合、ワクチン接種歴のある者が、ないものより軽症で済む臨床治験と合致していた。